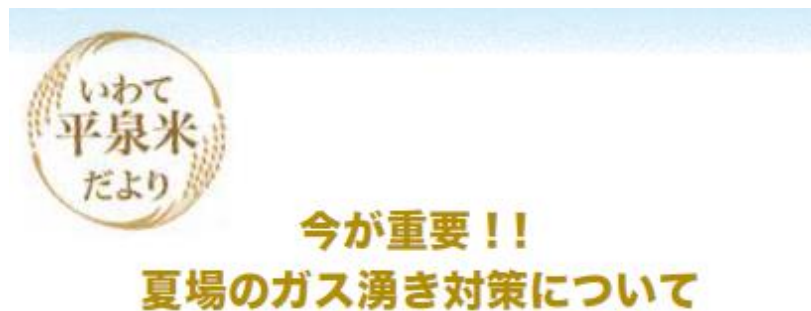


いわて平泉米だより

令和6年2月号



昨年の猛暑により稲刈りが早まったため「ひこばえ」が多く発生しています。秋耕を実施した圃場でも田面に多く見られ、このまま作付けすると、硫化ガスの発生により生育阻害が起こりやすくなりますので、ご注意ください。

これを軽減するには

- ◎田んぼの水を速やかに抜きましょう。
田んぼから水を抜くことにより、乾くことで、わらを分解するバクテリアの活動を活発にさせます。
- ◎雪が解け、地温が上昇し始めたら春耕を行きましょう。
土を細かくせず、土とわらに酸素がいきわたるように耕しましょう。湿田は無理せずに、^{めい}明渠などで水抜きを行きましょう。

春はもう、そこまで来ています。寒いうちに機械の点検を行い、春耕に備えておきましょう。安全作業も忘れずに！



ひこばえが伸び枯れた状態